

神嘗祭

かんなめさい

命の糧、稲の稔りに感謝し、
豊穰を祝う神嘗祭

神嘗祭は、神様に新穀を奉げ、五穀の豊穰、国民の平安などをお祈りする大祭で、神宮で執り行われる年間千五百余りのお祭りの内、最も重要な祭儀です。装束・祭器具を一新することから、神嘗正月とも呼ばれます。お祭りは、午後五時の「興玉神祭」と「御下」に始まり、午後十時からの「由貴夕大御饌」、深夜二時から「由貴朝大御饌」を奉った後、正午からは勅使(天皇陛下のお使い)が参向され幣帛という五色の布や織物などを御奉納なされる「奉幣の儀」、夕刻の「御神樂」と続きます。

夜間に行われるため祭儀は奉拝できませんが、参拝時間内の祭儀は参道等から奉拝できます。



第四十八回

初穂曳

はっほびき

神宮の神嘗祭をお祝いし、
感謝の心でお初穂を奉納

げくうりょうおかびき
外宮領陸曳

10月15日(火)
10時～12時30分

ないくうりょうかわびき
内宮領川曳

10月16日(水)
10時～14時30分



伊勢の民俗行事を
次世代に

神宮のお祭りは、米作りの歴史です

私たち日本人の主食であるお米。天孫降臨の神話では「三種の神器」とともに天照大御神から「稲穂」が託されたとされています。お米をつくる暮らしが、この国の繁栄と平和をもたらすとの教えからはじまり、お米を命の糧として国を建て、神々を祀り豊作を祈り、収穫の感謝を捧げてきました。神嘗祭を迎える一連の神宮の祭儀は、現代まで続けられてきた稲作を中心とした日本の国づくりを象徴する祭事です。



初穂曳WEB特設ページ



主催/伊勢神宮奉仕会 TEL0596-25-5215